

ボランティア福祉体験学習

…ボランティア

体験学習ノート…

新しい出会いそして大きな感動



©aichikenshakyō

愛知県社会福祉協議会ボランティアセンターマスコットキャラクター
愛夢（あいむ）ちゃん

愛知県社会福祉協議会
ボランティアセンター

— も く じ —

1. ボランティア体験学習の心得	1
2. ボランティア研修会報告ノート	3
3. ボランティア体験学習報告ノート	5
4. 資料編	
(1)ボランティア活動とは	9
(2)社会福祉協議会ボランティアセンター	10
(3)ボランティア活動の心がまえとは	11
(4)障害者への手助けとは	13
(5)高齢者への手助けとは	15

ボランティア体験学習の心得

1. 事前の準備

- ① 『ボランティア体験学習ノート』（以下『体験学習ノート』）を読み、心がまえ、体験学習の流れなどについてよく理解しておく。
- ② 『体験学習ノート』、「学生証」、筆記用具を持参する。
- ③ 受け入れ先の指示に従って、必要な持参品（運動靴など）を用意する。
- ④ 自己の健康管理を十分に行う。
- ⑤ 「本人住所」「連絡先」の欄（『体験学習ノート』最終頁）を必ず記入する。

2. 体験学習中の注意事項

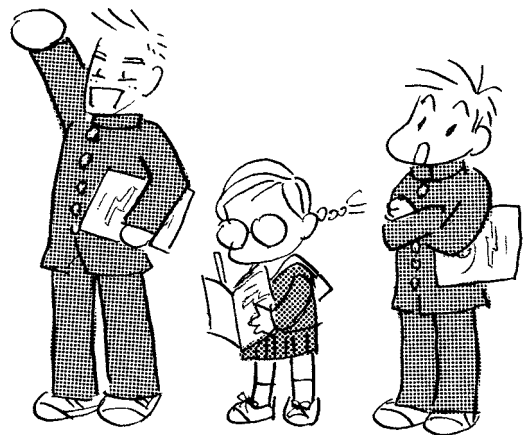
(1) 当日の体験学習について

- ① 受け入れ先の職員および関係者の指導のもとに効果的な体験学習に努める。
- ② 体験学習を通して知った施設および利用者についての情報は、不必要に外部にもらさない。
- ③ 受け入れ先の設備、備品、器具、書籍などの使用は必ず許可を得る。
- ④ 時間を遵守し、欠席・遅刻・早退は絶対にしない。もし、やむを得ず欠席・遅刻・早退をする場合は、必ず事前に受け入れ先に連絡し内諾をうける。
- ⑤ 私用の電話連絡は避ける。
- ⑥ 使用した部屋などはきちんと整頓しておく。
- ⑦ 受け入れ先や関係の人に迷惑をかけるような言動を慎む。

(2) 体験学習中の態度について

- ① 受け入れ先の施設長および職員に対しては、自分から学ぶ心がまえを忘れずに自覚を持って接し、謙虚に学ぼうとする態度を忘れない。

- ② 体験学習内容については得意、不得意を問わずに、積極的な態度で、指示されたことのみでなく、自発的に学習に当たる。
- ③ 言葉づかい、あいさつ、服装について
 - ア. 言葉は明瞭にし、質問および意見を述べる場合にも言葉づかいに十分注意する。
 - イ. 学習開始時・終了時のあいさつを徹底する。
 - ウ. 身支度は受け入れ先にふさわしいものである。
- ④ 健康管理について
 - ア. 健康に注意し体調を整える。
 - イ. 健康をそこねたり、事故が起きた場合は受け入れ先に連絡し、指示を仰ぐ。
- ⑤ 体験学習報告の記録について
 - ア. 体験報告ノートの記録は毎日きちんと記入する。



(ボランティア研修会)

●研修会報告ノート 平成 年 月 日 () 天気

活動場所

ボランティア活動の役割

社会福祉施設等の働き

(体験学習第 日目)

●体験報告ノート 平成 年 月 日 () 天気

活動場所

本日の目標

活動内容

午前 時 分

時 分

時 分

午後 時 分

時 分

時 分

時 分

活動先の概要

本日の感想

本日の反省点

(体験学習第 日目)

●体験報告ノート 平成 年 月 日 () 天気

活動場所

本日の目標

活動内容

午前 時 分

時 分

時 分

午後 時 分

時 分

時 分

時 分

活動先の概要

本日の感想

本日の反省点

4. 資料編

(1) ボランティア活動とは

ボランティア活動は、私たちが社会生活を営む上で誰もが一人では生きていけないという共同意識、連帯感に基づいた活動であり、共に築きあげる地域づくりをめざして、自発的に無報酬で参加をするものです。それは単に与えるということではなく、むしろ、“学びあい、育てあう”社会連帯の活動、相互理解の関係をつくりだす活動です。

これまでの福祉は、生活をしていくうえで、経済的または心身上に何らかのハンディキャップを持つ人々を対象として、施設におけるいわゆる入所保護を中心にすすめられてきました。しかし今日では、そうしたことにとどまらず、すべての人が快適な生活を保つことができるような条件を整備することを目的として、今までより更に広く、きめ細やかな施策が要求されてきています。こうした状況の中で、ボランティア活動の場は、大きく地域に向けられ、その先進的な活動が新しい地域福祉を切り開いています。

ボランティア活動の基本的な性格

自発性・自主性

他から、強制・強要されることなく自分自身が主体的に考え、自らの意志のもとに実践にあたりましょう。

ボランティアの心

社会性

特定の個人や団体の利益のためではなく、広く社会のために行う公共性のある活動です。

無報酬性

むくわれることを期待したり収入を得るための活動ではありません。

継続性

計画的に継続性をもって活動しましょう。

開発性

ニーズにあわせて、新しく開拓していくことも忘れずに。

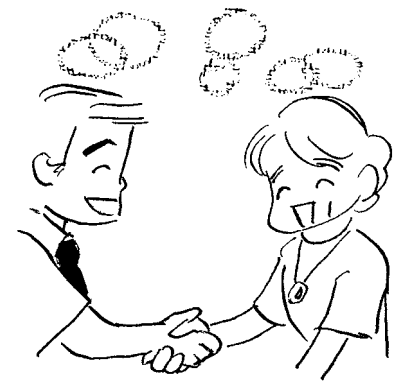
(2) 社会福祉協議会 ボランティアセンター

ボランティアセンターは、地域住民の社会福祉に関する理解と関心を高め、ボランティア活動への住民参加の促進をはかるため、地域の社会福祉協議会に設置されています。

現在、県内の市区町村すべての社会福祉協議会にボランティアセンターを設置しています。

次のような仕事を行っています

- **相談・紹介** — ボランティア・市民活動をしたい人、ボランティア等を必要としている人、社会福祉施設等からの相談応需、ボランティア・市民活動の登録・紹介
- **連絡調整** — ボランティアグループ・市民活動団体・福祉施設・関係団体との連絡調整
活動したい人と活動を必要とする人との連絡調整
- **連携・協働** — 多様な団体との連携・協働の促進・支援
NPO・市民活動団体等の活動状況の把握、情報交換支援
- **調査・研究** — ボランティア・市民活動に関する調査・研究
福祉・ボランティア・市民活動に関するニーズ調査
- **広報・啓発** — 関係機関等に対する情報提供
イベントの開催・情報誌の発行・ホームページの公開
- **企画・開発** — ボランティア体験学習プログラムの企画・開発
多彩なボランティア活動プログラムの企画・開発
- **養成・研修** — ボランティア・市民活動に必要な知識・技術習得のための各種講座・研修会の開催・ボランティアコーディネーター養成
- **育成援助** — ボランティア・ボランティアグループの育成・援助、市民活動団体への支援
- **活動支援** — 活動機材や図書の出借、講師紹介
保険の加入促進、助成金の交付、活動場所の提供
- **福祉救援・災害救援** — 災害時のボランティアセンター設置、災害時要援護者の把握、防災関係行政・団体との協力促進



(3) ボランティア活動の心がまえとは

ボランティア活動をする時の心がまえは、特に決まったものがあるわけではありませんが、次のような点に心がけましょう。

1

自分に合った身の回りのことから手がけましょう

私たちの身の回りには、身近な問題が顔を出しています。身の回りに目を向け、自分に合ったことから始めましょう。

2

相手のニーズ（求めていること）に合わせて活動しましょう

相手の自立を妨げるような行動はさけ、相手の立場にたって、ものごとを考え行動しましょう。

3

無理のない計画をたてましょう

自分やグループの力量にあわせて無理のない計画をたて、細く長く自分の生活のリズムに組み入れた活動にしましょう。

4

約束は守りましょう

ボランティア活動は人と人との信頼によって成り立つものです。活動の場での約束や知り得た情報は必ず守り、責任ある行動をとりましょう。

5

秘密は守りましょう

ボランティア活動を通して、いろいろな人の悩みや問題の相談を受けることも多くあります。しかし個人のプライバシーに関することは決して他言しないことです。秘密を守ることは、活動における信頼関係を深めることに不可欠です。

6

たえず学習し、自分を成長させましょう

ボランティア活動をしていると、いろいろな問題にぶつかります。

活動の反省をし、評価を行い、次の活動がより効果的に行われるように、繰り返し学習をしましょう。

7

宗教や政治活動とは区別しましょう

自分の信仰している宗教や、支持している政党などを相手に勧めたり強要してはいけません。信仰の自由、思想・信条の自由をお互いに守り、尊重しましょう。ボランティア活動は、人権尊重そのものであるという重い意味をかみしめましょう。

8

謙虚さも大切にしましょう

ボランティア活動は、押しつけになればかえってマイナスです。決して“してあげる”という発想ではなく、協力者であり援助者であるという立場でたえず尋ねる姿勢、学ぶ姿勢が必要です。

9

まわりの理解と協力を得ておきましょう

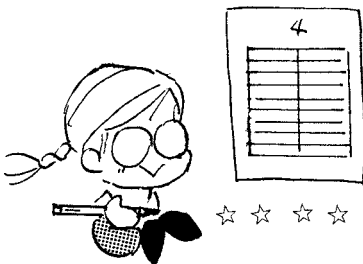
家族の理解と協力を得ておきましょう。また、職場、学校などで理解と関心をもってもらうことが、ボランティアの輪をひろげることにもつながります。



10

安全対策に充分配慮しましょう

万一の事故に備えて安心して活動できるように活動場所の点検や、事故が起きた場合などの対応を学習することも必要です。



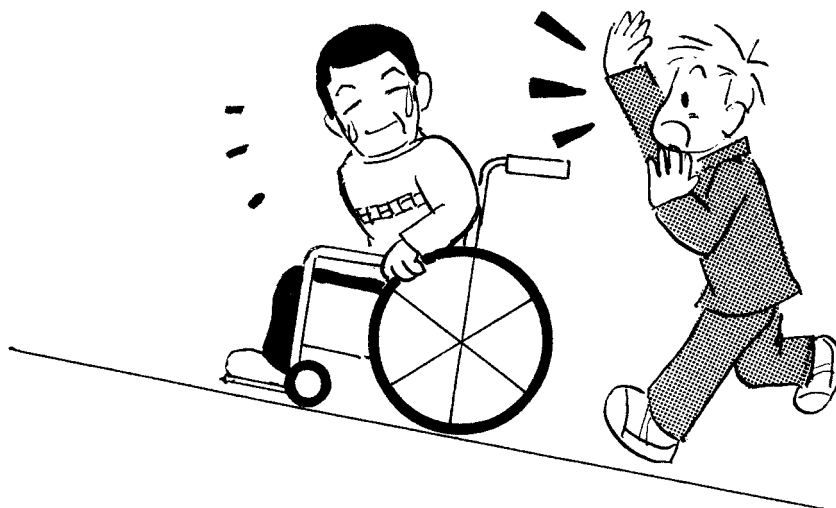
(4) 障害者への手助けとは

基本的なエチケット

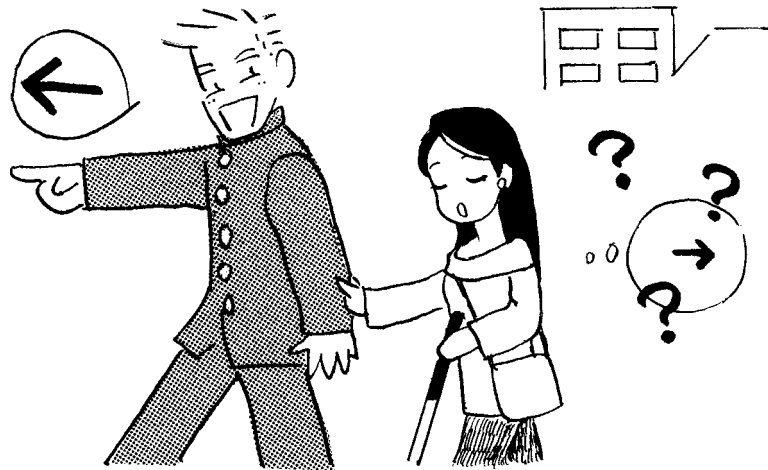
- (1) 人間一人一人が千差万別であるように、障害者一人一人もすべてちがう人間です。**それぞれの人格を尊重**することがエチケットの基本です。



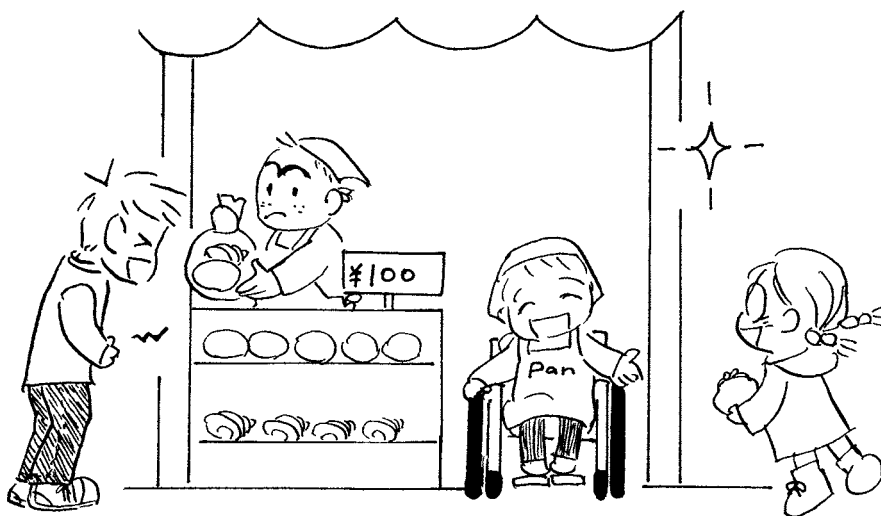
- (2) 障害者のお手伝いをするときは、まず声をかけることが大切です。**黙っていきなり身体に触れたり、車いすを押したりするのは、失礼**でもあり、相手を驚かすことになります。



- (3) 障害者が困っているのを見かけたら、その人が**何を**
してほしいのかを聞くことが大切です。ひとりよがり
で手を出すのは、親切ではなく、お節介になります。



- (4) 障害者を特別視したり、無能力者扱いをしないこと
が障害者に対して最も理解ある態度です。**何ができな**
いかではなく、人間にとって何ができるかが大切な
ことです。



(5) 高齢者への手助けとは

年とともに人間は身体が衰え、不自由な様々な障害が生じてきます。これは、年をとれば誰にでも起こるあたりまえのことです。こうした高齢者に、私たち若い世代が必要に応じて手を差し伸べることは、少しでも元気に長く人生を送ってもらうために、たいへん大切なことです。

1. 加齢による身体や心の変化

(1) 目の変化

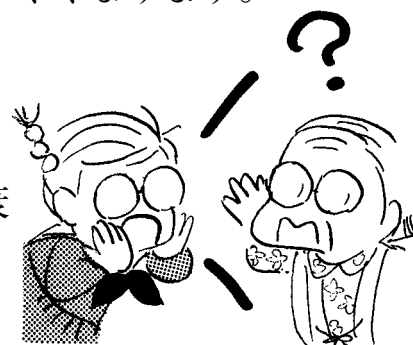
- ・目の調節機能が衰え、近くのものが見えなくなる、いわゆる老眼になります。
- ・水晶体が濁って、黄色みを帯びた色に見え、青色と黒色も見分けにくくなります（白内障）。

(2) 耳の変化

- ・聴力が衰え、特に高い音域の音が聞こえにくくなります。

(3) 筋力の変化

- ・手足の関節は曲がりづらくなり、筋力も衰え、少しの段差にもつまづきやすくなります。



(4) 脳の変化

- ・生理的な老化により、物忘れしやすくなります。
- ・脳の障害により、認知症になることがあります。

○ 開催社会福祉協議会の連絡先

名称		電話	() -
住所	〒		
担当者			

○ 活動先の連絡先

名称		電話	() -
住所	〒		
担当者			

名称		電話	() -
住所	〒		
担当者			

編集

愛知県社会福祉協議会
ボランティアセンター

〒461-0011 名古屋市東区白壁1丁目50
愛知県社会福祉会館内

T E L (052) 212-5504(直通)
(052) 212-5502

F A X (052) 212-5503

ホームページアドレス

<http://aichivc.jp>

H 30.6

○ 本人の住所

氏名		電話	() -
住所	〒		
学校名		学年	